

第9回市民活動ワークショップ 実施報告

開催日時	平成22年9月22日(水) 18:40~20:30
開催場所	武蔵野スイングビル10階 スカイルーム1, 2, 3
参加者構成	市民: 29名(公募) アドバイザー: 高山和久(東京ボランティア・市民活動センター統括主任) 事務局: 8名(武蔵野プレイス開設準備室)
次第	開会 1. 事務局説明 武蔵野プレイス市民活動フロアの管理運営形態について 2. 報告事項 (1) 「プレイスニュース」第3号発行について (2) ニュースレター第6号発行について 3. 検討事項 (1) ワークショップのまとめ(報告書)について (2) 「キャッチフレーズづくり」(後編) 3. 事務連絡 閉会
配布資料	資料1 次第 資料2 「プレイスニュース」第3号 資料3 「市民活動フロアを考える市民ワークショップだより」(第6号) 資料4 ワークショップのまとめ(報告書)草案 資料5 第10回ワークショップの開催予定について 資料6 第8回市民活動ワークショップ 実施報告

概要

次第1：事務局説明

〔内 容〕：事務局からの説明および質疑応答

〔概 要〕：武蔵野プレイス市民活動フロア 管理運営形態の変更について

(財)武蔵野生涯学習振興事業団が指定管理者として、武蔵野プレイス全館の管理運営を行い、一部、市民活動機能については、同事業団から外部団体に業務委託をするという態勢が従来の考え方であった。現在、同財団は公益財団法人への移行を目指し(※1)、準備をすすめているが、包括的に外部委託をする方式では、市民活動支援に関する事業が公益事業と認定されない可能性が高いため(※2)、指定管理者が直接業務を担う体制を取ることにした。

なお開館前の準備には、ワークショップの検討結果を十分に活かすこと、開館後は市民・利用者が運営に参画する体制(運営委員会(仮称)等)を整備すること等の方向性は従来どおり。人材の確保、育成は、指定管理者が行う。

※ 1：平成20年に改正公益法人関連3法が施行され、施行後5年以内に、従来の財団法人・社団法人は、公益財団・社団法人か、一般財団・社団法人に移行しなくてはならないとされている。

※ 2：公益性の審査は、民間有識者等からなる公益等認定審査会で行う。

【質疑応答】

Q1：指定管理者は、コンペ(競争)で決定するのではないかと？

A2：条例では、競争以外の方法もある。プレイスに関しては、武蔵野生涯学習振興事業団の団体内容を審査し、適切であると認められたため、平成22年3月の市議会の議決で指定管理者となった。

Q2：利用者の立場から見て何が変わるか。

A2：ワークショップでの検討結果を尊重して運営するという考え方に変わりはない。

Q3：ワークショップの検討結果を尊重するということは、どのように担保されるのか。

A3：ワークショップの成果は、まとめ(報告書)という形で残る。それを尊重するのは市としての方針。

Q4：市民活動フロアはいつまで事業団が運営するのか。将来運営形態を変更する見通しはあるか。

A4：将来、運営形態変更の予定がある訳ではない。公益認定の基準が変わるなど、将来の状況変化によっては、外部委託の方式も選択肢として残しておくということ。

Q5：武蔵野生涯学習事業団が将来にわたりプレイスの管理運営を行うのか。

A5：指定管理の期限は5年。再度指定されることもあるし、別団体が指定を受ける可能性もある。

次第2：報告事項

〔内 容〕：実行準備会および事務局からの報告

〔資 料〕：資料2
資料3

〔概 要〕：

(1) 「プレイスニュース」第3号発行について

「プレイスニュース」第3号が発行されたことについて、事務局から報告した。

(2) ニュースレター第6号発行について（実行準備会の編集担当者より報告）

※「ワークショップ実行準備会」とは、毎回のワークショップの準備作業等を行うことを目的として、ワークショップ参加者中の有志で構成する会。

次第3：検討事項

(1) ワークショップのまとめ（報告書）について

〔内 容〕：実行準備会からの報告およびグループワークによる検討

〔資 料〕：資料4

〔概 要〕：

① 検討内容

実行準備会で編集が進められている、本ワークショップのまとめ（報告書）の原稿案を基に、各章ごとのグループに分かれて、内容について討議を行った。

② 検討方法

報告書の章ごとに各執筆者が内容を紹介した。次いで、各章ごとにグループをつくり、参加者は各々関心のあるグループに入って、その章の執筆者を中心に原稿、内容について検討した。

③ 発表内容

○ 「第3回（情報）」の章

【内容】

- ・ 市民活動についての「情報」とはなにか、ということについて記述する必要があるのではないか。

○ 「第4回（交流・居場所）」の章

【内容】

- ・ 「この場所だから出来ること」という意見が出ていないのでは。
- ・ 「武蔵野市らしい施設に」という意見が出ていないのでは。
- ・ ボランティアセンターや、コミセンにないものをつくっていくという視点が必要。
- ・ 世代をこえて出会う場に、市民活動フロアがなっていけばよい。

○ 「第5回・第6回（設備・備品）」の章

【内容】

- ・ 「無線 LAN はどのようなになっているか？」という質問があった。
- ・ パソコンを持ち込んでの会議に対応できるように、十分な電源を確保することが必要ではないか。
- ・ （武蔵境周辺地域との関連で）プレイスだけですべてのことを完結させる必要はないのではないか。
- ・ 「どこまでのこと（機能、サービスなど）を、市民活動フロアが担うべきか」という議論がもっと必要なのではないか。

○ 「第7回（利用ルール）」の章

【内容】

- ・ （「利用ルールは必要最小限に」というのが第7回ワークショップのまとめであったが）利用にあたっては、団体登録をするようにすべきでは。（市外団体も登録可能に）

○ 「第8回（運営委員会）」の章

【内容】

- ・ 運営委員は、20名～30名程度で構成してはどうか。
- ・ 運営委員会が主催する形で、利用者懇談会を設けてはどうか。
- ・ 運営委員会は月1回、利用者懇談会は年1回程度と想定されるが、最初の3年間はもう少し数を増やすべきではないか。
- ・ 運営委員会に、部会を設けてはどうか。（イベント部会、トラブル調整部会、団体間のネットワーク部会、情報発信部会など）
- ・ 運営委員会には運営委員長、副委員長のほかに事務局が必要。
- ・ 交通費程度の謝礼が出ることを希望したい。
- ・ 運営委員は、ワークショップに参加した人から選出されるのが望ましい。
- ・ 名前だけの運営委員では困る。

④ 編集委員長より

今日は、これまでに話し合ったことで忘れていたことや、新たな提案なども出され、非常に貴重な意見をいただいた。これをもとに、報告書の文章を膨らませていきたい。

(2) 「キャッチフレーズづくり」

[内 容]：全体での協議

[資 料]：資料4（P38～P39）

[概 要]：

① 検討内容

第8回ワークショップで多数出されたキャッチフレーズの候補を、更に絞り込む作業を行った。

なお、最終的には次回のワークショップで、キャッチフレーズ及びその使用方法を決定することになった。

② 検討方法

資料4のキャッチフレーズ案とそこに込められた想いを読み、キャッチフレーズとしてふさわしいと思われるものに挙手を行った。挙手は1人2回とした。

③ 検討結果

以下の表の「票数」の通り。

キャッチフレーズに込めた想いなど	キャッチフレーズ案	票数
プレイスに求めることは、何かを発見できるということと、出会いがあるということ。それをキャッチフレーズ風にまとめた。	・ あるかも発見、あるかも出会い	4
	・ 見つけることと出会うこと	0
まずプレイスに「行く」。行った以上は何かに「参加する」。そのことを通じて、自分は何者か、ということを知ると共にそこで新しい何かを「発見する」。こうしたプレイスでの一連のプロセスを表現した。	・ 行きます、参加します、発見します	3
キーワードは「発見」。新しいことを知る、そこからいろいろなことがイメージされ、新しい出会いにつながっていくということをもとめた。	・ みんなこいこい 武蔵野プレイス	1
図書館機能、市民活動機能、生涯学習機能のダイナミックなつながりあい考えた。	・ 市民活動と学びの融合	0
武蔵野プレイスの市民活動フロアは「居場所」として交流を紡ぎ出し、そこからさまざまな活動がらせんを描くように発展していくイメージ。その過程では市民活動だけでなく、図書館や青少年機能などと情報がやり取りされるはずで、その様を案のように表現した。	・ 情報キャッチボール	2
市民同士、子ども、青少年を意識して考えた	・ 市民活動 ひらく・見せる・むすぶ	3
はじめに出てきたキーワードは「つながる」。そこから膨らませていくと、単に「つながる」ということだけでなく、「あたたかく」つながることの大切さや、フロア全体や、フロアを越えたつながりに「広がる」、そんな場であって欲しいとの想いを込めた。	・ つながる 広がる	1
	・ 出会う つながる 広がる	5
	・ 出会う つながる 広がる創造の場 武蔵野プレイス	7
	・ あたたかくつながる	0
	・ 人がつながる武蔵野プレイス	5

上をまとめる形で、「みんなでこの場を育てていく」という思いを込めた。	・ みんなで育てよう 市民活動ひろば	4
武蔵野市では、他に先駆けて、自治の文化がつくられるなど、市民の文化が根づいてきた。もう一度、市民が文化をつくっていく拠点にしたい、という思いを込めた。	・ 文化創造の拠点	2
	・ 私たちの活動が 武蔵野の文化を創る	3
1人1人が活動の種を蒔き、活動を動を広げる。また、お互いにたがやし合いながら、そこから更に新しい武蔵野独自の文化をつくっていけるような場であって欲しいという思いを込めた。	・ 種をまいて、たがやす	1
	・ 情報の森	3
	・ あらゆる立場にオープンな場所	0

次第4：事務連絡

次回日程：平成22年10月5日（火）18:30～20:30 武蔵野スイングビル 10F スカイルーム

閉会

閉会后～ワークショップ実行準備会 打ち合わせ

参加者：市民9名、事務局3名、アドバイザー

内容：① 市民活動フロアを考える 市民ワークショップだより」第7号の発行について

② 今後の日程について

③ 報告書の編集について